

# 米寿の祝いを

鈴木治雄

大正七年二月、鈴木商店の最盛期に生を受けて以来、八十八年の年月が経ったとは夢の様な思いです。

此の八十八年の歳月をふり返って見ますと、運の強さが各所に出ていると思います。

先ず生れて六ヶ月で米騒動に会い、以来、大きな出来事や事故等に遭いながら、それを切り抜けて来られたのは幸運の星の下に生を得てきたお蔭と感謝しております。また自分自身の努力としては昭和七年の夏（七月二十三日～八月二十日）から十五年の夏と、毎夏約一ヶ月の長期キャンプで人生の生き方とか人に接する態度等の基礎を教わった事が、社会に出てからどれ程役に立ったか計り知れません。

此の時代は支那事変の最中で何もかも天皇に忠節を尽くせと言う教育が世間の常識で、デモクラシーな教育は御法度だった時代に私が過ごした九年間の夏の教育はほんとうに後日の役に立ちました。

指導してりましたが、二十年の三月、四月と二ヶ月で全工場が爆撃され、仕事が出来なくなり何とか再建をと画策いたしました。資材が無く無為の日を過している内に八月十五日の終戦の日を迎えてしまいました。

戦後六十年は、日を新たにして書きます。

## 神戸製鋼所百周年を迎える

神戸製鋼は、平成十七年九月一日に百周年記念パーティーが神戸ポートピアホテルで開催されました。辰巳会の鈴木会長が招かれ、セレモニーでは鈴木商店創業者縁の人として出席者に紹介されました。

神戸製鋼の歴史は、鈴木商店が明治三十八年秋に金子直吉翁により小林製鋼所を買収したのがルーツになります。明治四十四年に鈴木直営事業より分離独立して株式会社神戸製鋼所の誕生です。直吉翁は、神戸製鋼に限らず、すでに産業の多角化を展開し、後に多くの産業企業を育むこととなります。

神戸製鋼は、明治、大正、昭和、平成の時代の流れにおいて、鉄鋼

一方時代は戦争へと進み、国民男子の義務であった徴兵検査ではある事情で第三乙種となり、兵役の義務は遠退き許可を得て上海に行く事が出来ました。所が、上海到着一週間目に大東亜戦争が始まって動きが取れなくなり、当時の日商上海支店に勤める事になりました。

昭和十八年三月に結婚し上海で暮らしていましたが、幹部候補生ばかり六十名が教育招集を受け、上海の陸戦隊基地で二十日間の教育を受けました。

二十日後成績の発表があり、私は二番目に呼ばれました。其の時はこれで兵隊に採られるのだと覚悟をしました所、「一番より十五番目に呼ばれた者は真面目に教育を受けた者達で、銃後に於いて市民の皆様の模範となり皆を指導する為に帰って宜しい」と言われ教育は終了しました。因みに後の四十五名は入隊し内地から南方へ行く部隊の補充兵となり、三ヶ月後に台湾沖で潜水艦の雷撃で帰らぬ人となられた、と聞きました。此処で先ず幸運を得ました。

昭和十九年五月に内地から帰国せよとの話が来まして、大連を経由二週間かかって帰神しました。そして日本輪業に復帰し、軍需工場だった本社で陸海軍それぞれの飛行機用油送管を作る工場を監督官と共に

事業はもとより、アルミ、銅、機械事業と、今や世界の神戸製鋼として巨大企業に成長しました。近年では、神戸創業の地において、発電設備を建設し電力の供給事業に参入しました。同社大伏泰夫社長は百周年記念誌で「十年後、二十年後、どんなに時代が変わっても、創業以来ずっとこだわってきた「モノづくり」の姿勢を持ち続け、「開発する力」と「製造現場の力」にさらに磨きをかけていきたいと思えます。また、「新たな歴史に向かって皆様のご期待に沿えるよう努力してまいります。」と力強く語られていました。歴史の鈴木商店グループの会社から、輝く神戸製鋼グループの飛躍を祈念します。

—辰巳会事務局—

